

南丹保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(急性呼吸器感染症定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第8週 2026年2月16日 ~ 2月22日

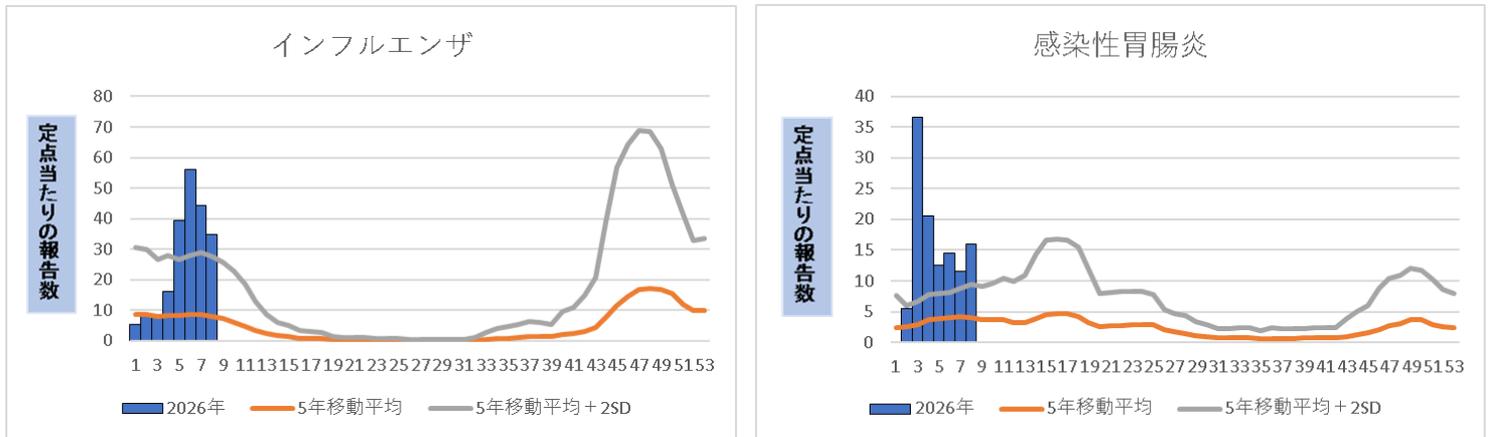
今週のコメント

南丹保健所管内では、インフルエンザと水痘が警報レベル継続中です。
京都府内では、インフルエンザが警報レベル 継続中です。

2026年第8週の報告です。

- インフルエンザの定点当たりの報告数は南丹 34.75(前週 44.25)、京都府 35.66(前週 41.16)となっています。
- 感染性胃腸炎の定点あたり報告数は、南丹 16.00(前週 11.5)、京都府 6.63(前週 6.55)となっています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点あたり報告数は、南丹 7.50(前週 3.00)、京都府 4.63(前週 3.68)となっています。
- 水痘の定点あたり報告数は、南丹 2.50(前週 1.50)、京都府 0.83(前週 0.63)となっています。

今週のグラフ (下記のグラフは管内上位2位疾患のグラフを掲載しています)



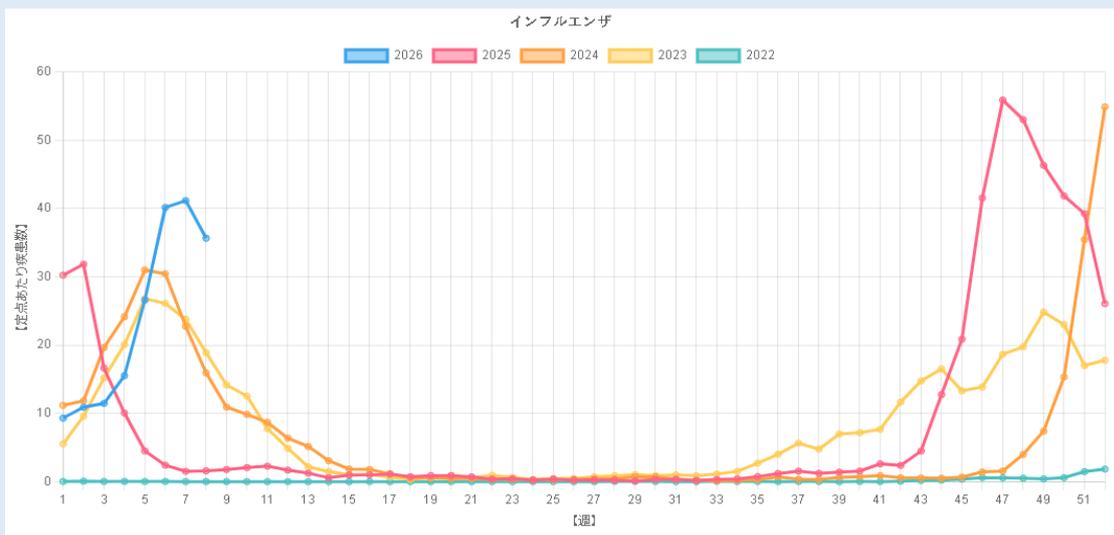
※横軸は週数 縦軸は定点あたりの報告数を示しています

- 『5年移動平均』は、過去5年間の平均値の変化を表しています。
- 『5年移動平均+2SD』は、過去5年間のデータのばらつきを考慮した上限を示しており、データの約95%がこの線より下に収まるとされる基準です。

京都府全体でインフルエンザの警報レベルが継続しています。
基本的な感染症対策(手洗い、咳エチケット、適度な湿度を保つ、人混みを避ける等)を
しっかりと行いましょう！

第7週と第8週を比較すると、南丹保健所管内、京都府内ともにインフルエンザの定点あたり報告数は減少傾向にあります。

国立健康危機管理研究機構(JIHS)の速報データによると、令和7年第46週(11月10日~16日)より警報基準が開始された際は、主に「A型(H3)」によるインフルエンザが流行していましたが、令和8年に入ってから流行は主に「B型(ビクトリア系統)」によるものです。



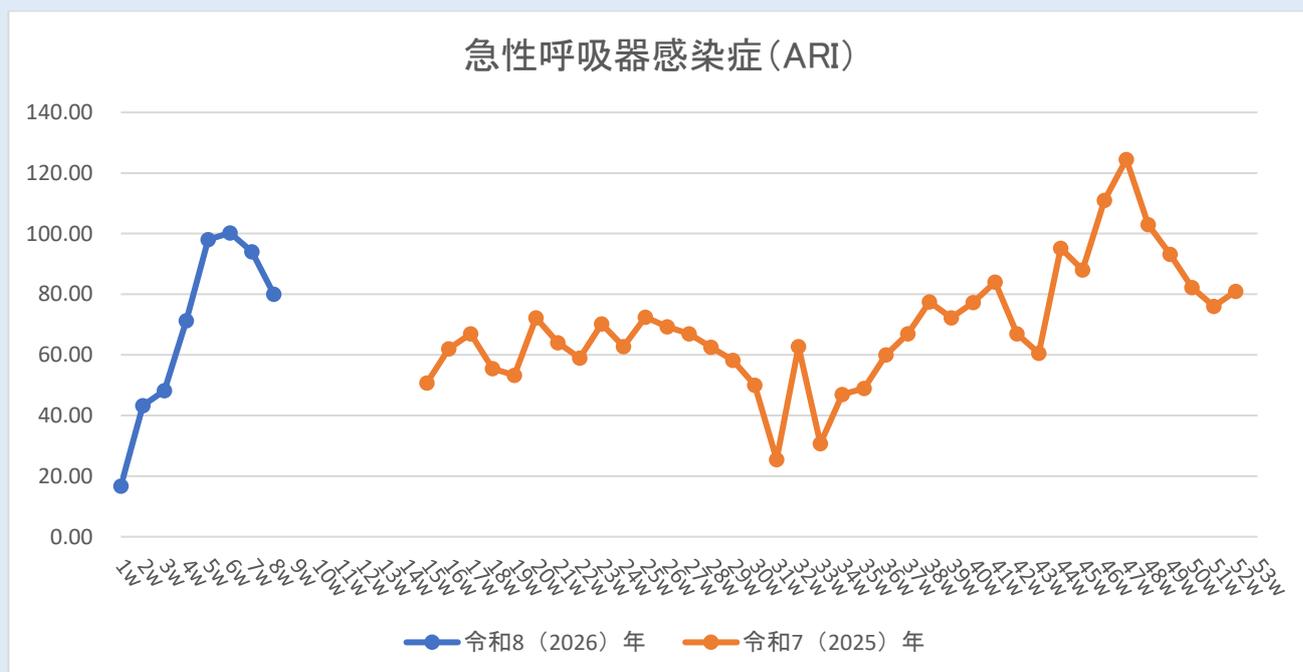
各定点把握疾患 発生状況(南丹管内)

	警報レベル		注意報	R8.8w		前週定点 (参考)
	開始	終息		定点当たり 報告数	前週比	
インフルエンザ*	30	10	10(流行1)	34.75	↘	44.25
新型コロナウイルス感染症				1.00	↘	4.75
RSウイルス感染症				0.00	→	0.00
咽頭結膜熱	3	1		0.50	↗	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4		7.50	↗	3.00
感染性胃腸炎	20	12		16.00	↗	11.50
水痘	2	1	1	2.50	↗	1.50
手足口病	5	2		0.00	→	0.00
伝染性紅斑	2	1		0.00	→	0.00
突発性発しん				0.00	↘	0.50
ヘルパンギーナ	6	2		0.00	→	0.00
流行性耳下腺炎	6	2	3	0.00	→	0.00
急性出血性結膜炎	1	0.1		0.00	→	0.00
流行性角結膜炎	8	4		0.00	→	0.00

急性呼吸器感染症(ARI)について

急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

南丹保健所管内第8週報告数は320件(定点当たりの報告数80.00)でした。[京都府の情報はこちら](#)



最新情報は下記のリンク先でご確認ください(関連リンク)

・[京都府感染症情報センター](#)

更新時期: (原則) 毎週木曜日 14 時 前週分の状況を更新

・[感染症の情報\(国立感染症研究所\)](#)